

## 令和2年度 長崎日本大学高等学校 学校評価－教職員による自己評価表

学校教育の基本方針	日本精神を基調として広く世界に知識を求める日本大学の建学の精神を継承し、世界的視野をもって世界の平和に貢献できる人物の育成、ならびに地域の文化の振興と、青少年の健全育成に寄与する。
学校教育目標	「至誠・勤労・創造」の校訓を実践し、生徒が誠の心をもって意欲的に学習し、深い思考力、確かな判断力・柔軟な実践力を備え、豊かで品位ある人間性を身につけた活力溢れる若者を育成する。 また、教職員が自らを高め、和を尊び、活気に満ちた本校独自の教育環境創りを目指す。
重点努力項目	教育目標具現化のため、共通理解と協働体制により教育実践に臨む。 ① 校訓を生かした人格教育の推進 ② 進路指導の充実と学力の向上 ③ 校訓実践による爽やかな校風の樹立 ④ 生徒会活動、部活動の発展と活性化 ⑤ 環境教育の推進と公共心の育成 ⑥ 国際教育を推進し、豊かな国際感覚の育成 ⑦ 教職員の資質能力向上と学校組織の活性化

評価項目	具体項目	目 標	項目番号	具体的方策	評価			成果と課題
					R2年度	昨年度	増減	

### I 学校経営 全職員による共通理念の形成および学校経営の参画に関する教育的成果の評価

(1) 学校教育目標	学校教育目標の具体化	建学の精神に即した目標を設定し、教職員間の共通理解のもとに、教育目標の具体化を図る。	1	校訓や「生徒が主役」の教育理念をふまえた学校教育目標を設定する。	3.5	3.4	↑ 0.1	年間を通して、校訓や教育理念に基づく教育活動を意識できた。
			2	前年度の教育的課題を精査し、学校全体や生徒の実態を考慮した適切な教育目標を設定する。	3.4	3.3	↑ 0.1	前年度の課題を踏まえた全般的な生徒への指導が適切に機能した。
(2) 教育経営方針	教育経営方針の明確化とその実践	教育経営方針を学校内外に明確に示し、教職員間の相互理解と、保護者・地域の支持に基づく教育活動を行う。	3	教職員が学校（校長）の教育方針を意識して、教育活動を展開する。	3.5	3.4	↑ 0.1	個々の所属等に応じ、一定の取り組みをそれぞれ実践できた。
			4	教育目標や教育経営の方針について、生徒・保護者に理解を得る努力をする。	3.5	3.4	↑ 0.1	コロナ禍で対面が困難な分、工夫した情報提供に努めることができた。
(3) 各学科・コース経営	各学科・コース目標の具体化	学校教育目標に沿った、各学科・コースの目標に基づいて経営を行う。	5	学科・コースの特色を明確化し、教員・生徒・保護者への周知を図る。	3.5	3.3	↑ 0.2	科・コースにおける単独の情報提供について、機会が増やせた。
			6	学科・コース別の会議を定期的に行い、指導上の課題を共有することに努める。	3.7	3.5	↑ 0.2	朝の打合せや定例の会議等、コース科長を中心に機能している。
(4) 学級経営	学級目標の具体化	学校目標及び各学科・コースの目標に沿った学級づくりに努める。	7	学校目標や学科・コースの目標に沿って、学級経営を行う。	3.6	3.4	↑ 0.2	担任陣が、学校やコースの目標・理念を意識し運営に尽力している。
			8	学級担任は学級生徒と個別面談を実施し、生徒個々の理解に努める。	3.6	3.6	→ 0	時間的制約の中、担任が個々と関わる機会をよく工夫している。

評価項目	具体項目	目 標	項 目 番 号	具 体 的 方 策	評 価			成 果 と 課 題
					R2度	昨年度	増 減	

**II 教育活動 教育活動全般における計画的・組織的な活動がもたらす教育的成果に関する評価**

(1) 教育課程の編成	適切な教育課程の実施	学習指導要領の趣旨を生かしつつ、特色ある教育課程を編成・実施する。	9	学科・コースの特性を活かした教育課程を編成し、学習環境を提供する。	3.5	3.3	↑ 0.2	志望に即した編成に一定の成果が見える。改訂作業も進んでいる。
(2) 教科指導	わかる授業の展開と工夫・改善	創意工夫がなされた学習指導を行う。	10	教科科目の年間指導計画を作成し、学習指導にあたる。	3.6	3.5	↑ 0.1	前年度末に作るシラバスを踏まえ、適切な教科指導が進んでいる。
			11	生徒による授業評価を実施し、教科担任はその結果をもとに授業内容や方法の工夫に努める。	3.6	3.5	↑ 0.1	個々の教職員が、前年度の評価を踏まえ指導法を工夫している。
	教材の精選と教具の活用	生徒の実態に応じて教材を精選し、教具を適切に活用する。	12	教材の精選、教材の自作などをとおして、生徒の学習活動の支援や意欲の喚起に努める。	3.6	3.5	↑ 0.1	授業教材や課題について、生徒の現状を踏まえて工夫している。
	適切な学習評価	教職員の共通理解のもとに、適切な評価を行う。	13	教科担当間で評価基準について話し合い、共通理解に基づいて評価を行う。	3.5	3.4	↑ 0.1	教科ごとに連携を図り、共通の観点での指導・評価を進めている。
			14	定期考査においては教科で問題を十分に吟味し、到達目標に沿った作問ができているか精査する。	3.5	3.4	↑ 0.1	同一評価の集団ごとに、担当者が相談して作問にあっている。
(3) 総合的な探究の時間	ねらいが明確で工夫を凝らした活動	学習指導要領のねらいをふまえて、地域や学校の特色を生かした活動を行う。	15	指導目標が明確な年間計画を作成し、目標の達成へ向けて教職員の協力体制を構築する。	3.5	3.4	↑ 0.1	教頭・教務等と担当者が連携を図り、適切に実施・評価している。
(4) 特別活動	ホームルーム活動の充実	学校や各学科・コースの目標に沿った年間計画に基づき、活発な活動を行う。	16	学級担任は、学科・コースの方針に基づき、計画的にホームルーム活動を実践する。	3.6	3.4	↑ 0.2	SHRやLHR、学校行事を活用しホームルーム経営を工夫している。
	学校行事の充実	学校・生徒の実態に即した効果的な学校行事を計画し、その内容を工夫する。	17	生徒の主体的な運営により、生徒自身が達成感を味わいうる学校行事を実践する。	3.3	3.4	↓ -0.1	コロナ禍で活動が制限され、生徒が行事の減少を痛感している。
(5) 生徒指導	基本的な生活習慣の確立	的確な生徒理解に基づき、全職員で挨拶・マナー・礼儀などきめ細かな生徒指導を実践する。	18	定期的な容儀検査及び、前後の指導を全職員で徹底し、制服の着こなしに関する意識を喚起する。	3.7	3.7	→ 0	至誠推進部主導のもと、容儀指導に関し高い意識を共有できている。
			19	登下校指導を通じて挨拶運動を定着させるとともに、通学時のマナーや安全意識の向上を図る。	3.5	3.4	↑ 0.1	毎日の継続的な挨拶運動に加え、登下校指導も充実している。

評価項目	具体項目	目 標	項目番号	具体的方策	評価			成果と課題
					R2度	昨年度	増減	

## II 教育活動 教育活動全般における計画的・組織的な活動がもたらす教育的成果に関する評価

(6) 進路指導	進路指導の充実	系統的・計画的な進路指導を实践する。	20	本校独自のキャリア教育を実施することにより、生徒各自の進路設計の明確化を図る。	3.6	3.5	↑ 0.1	高1を対象に、数少ないキャリア教育を効果的に進められた。
			21	生徒個々の志望進路にあわせた進路説明会や、保護者に対する情報提供に努める。	3.5	3.4	↑ 0.1	コロナ禍で機会は減ったが、必要な情報提供の場を工夫できた。
			22	各種試験の分析を、学年及びコース単位で行い、生徒個々の学力向上に努める。	3.4	3.1	↑ 0.3	成績分析会を定期的に設けたが、内容について更に検討を要する。
(7) 教育相談	教育相談の充実	生徒のもつ悩みや、困難の解決を援助する。	23	カウンセリングマインドをもって生徒に接し、問題の早期発見・早期解決に努める。	3.6	3.4	↑ 0.2	担任を中心に、生徒の内面に寄り添った対応が意識されている。
(8) 生徒会活動	生徒会活動の充実	自主的な生徒会活動を支援する。	24	生徒会活動の機会を設定し、適切な支援を行う。	3.5	3.4	↑ 0.1	執行部を主とする生徒会活動を、顧問が中心となり支援している。
			25	生徒会活動の成果を、全校生徒で共有できるように努める。	3.5	3.4	↑ 0.1	行事が減少する中、生徒自身が創意工夫を凝らし成果を残せた。
(9) 読書教育	読書教育の充実	読書の重要性について啓発し、豊かな感性と落ち着いた生活習慣を育成する。	26	オリエンテーション・読書週間・図書館報などとおして、読書に対する意識向上を図る。	3.5	3.4	↑ 0.1	学期に一度の読書週間が定期化し、図書部も集館の工夫をしている。
(10) 健康安全教育	健康や安全に対する態度の育成	健康・安全な生活を送るための指導を行う。	27	生徒の心身の健康について、保健体育科・養護教諭・担任間の連携を密にした指導に努める。	3.6	3.5	↑ 0.1	生徒の心身状態に応じた、適切な連携や情報のやり取りを行っている。
(11) 人権同和教育	人権尊重に対する適切な価値観の育成	人権尊重に関する様々な課題を認識させ、解決のための実践力を身に付けさせる。	28	人権・同和について考えるための機会を設定する。	3.2	3.2	→ 0	啓蒙活動は行なわれているが、時季的・限定的に留まっている。
			29	教職員も生徒の学習機会に合わせて人権・同和について理解を深め、適切な指導に役立てる。	3.1	2.9	↑ 0.2	生徒を対象とした機会に、教職員も研修できる機会が更に必要である。

評価項目	具体項目	目 標	項 目 番 号	具 体 的 方 策	評 価			成 果 と 課 題
					R2度	昨年度	増減	

## II 教育活動 教育活動全般における計画的・組織的な活動がもたらす教育的成果に関する評価

(12) 部活動	部活動の 活性化	部活動への参加を奨励し、活発な活動を行う。	30	顧問・学級担任・教科担任との連絡を密にし、生徒の指導に関する共通理解を形成する。	3.6	3.5	↑ 0.1	個々の状況に応じて、顧問と担任間等の情報共有が進んでいる。
			31	部活動をとおして、各生徒の能力を伸長させ、心身の充実を図るよう配慮した指導を行う。	3.7	3.7	→ 0	各顧問の尽力のもとで、適切かつ有意義な活動が実践されている。
(13) ボランティア活動	ボラン ティア活 動の充実	ボランティア活動を通して、奉仕の心と郷土を愛する心を育成する。	32	校内のエコ活動・ボランティア活動を推進し、ボランティア活動への意識を高める。	3.1	3.2	↓ -0.1	コロナ禍で校外に出る機会が減少している。取り組みに工夫を要する。
(14) 個別指導	個を生か す指導の 充実	個に応じた指導の一環として、学習支援や各種資格取得を奨励する。	33	生徒の関心と適性に応じた検定試験の情報を適切に提供し、合格に向け指導する。	3.6	3.4	↑ 0.2	受検者の募集と取得に向けた一定の指導が、検定ごとに為されている。
			34	学校生活に悩みを抱える生徒の早期発見に努め、関係教職員の連携によって生徒を支援する。	3.6	3.4	↑ 0.2	アンケートや面談をとおして、生徒の状況把握を行っている。
(15) 集団指導	規律ある 生徒集団 の育成	個々の生徒が集団の一員としてとるべき適切な行動様式を理解し、自律的な言行をとることができる。	35	全校集会などの機会を利用して、集団の一員としてとるべき行動様式を指導する。	3.3	3.3	→ 0	大規模で集まる機会が持てずやや停滞している。手法を工夫したい。
			36	リーダー研修会を開き、「生徒が主役」を牽引する生徒集団のリーダーを育成する。	3.1	3	↑ 0.1	活動が部分・限定的である。全体を俯瞰した活動に工夫を要する。
			37	校外に生徒集団を引率する機会に、全職員による集団指導の体制を確立する。	3.3	3.2	↑ 0.1	校外での大規模な活動が、コロナ禍の中で実現できずにいる。

評価項目	具体項目	目 標	項目番号	具体的方策	評価			成果と課題
					R2度	昨年度	増減	

### Ⅲ 組織運営 教育活動の円滑化、教師集団の共働性にかかわる教育的成果の評価

(1) 校務分掌	組織的な活動と運営	各自が自分の役割を把握し、分担に応じて適切に校務を処理する。	38	分掌、学科・コース、教科など各部間の連携をとり円滑な組織運営に努める。	3.6	3.3	↑ 0.3	部署内の連携が相互間に発展し、縦横の繋がりの機能性が増した。
(2) 各種委員会	目的に応じた適切な委員会設置	目的に沿って適切に委員会を設置し運営する。	39	学校運営に必要な諸会議を適宜開催し、教育活動に反映させる。	3.6	3.3	↑ 0.3	必要な諸会議がその都度行われ、広く情報が共有されている。
(3) 校内研修	研修体制の確立と実践	計画的・組織的な研修の体制を整備し、教職員の教育活動の質的向上を図る。	40	初任者研修や、研究・公開授業といった研修の機会を設定する。	3.5	3.2	↑ 0.3	校外の研修機会が制限される分、校内で有意義な企画を立案できた。
(4) 現職教育	教職員の資質向上へのとりくみ	教育センター等の研修に積極的に参加する。	41	教職員の研修参加を奨励し、紀要などを活用した成果の共有を図る。	3.5	3.2	↑ 0.3	人数・回数等の制約の中、積極的な参加と情報共有が見られる。
(5) 私学活性化の為に目標設定・自己申告制度	学校活性化・自己申告制度	計画的、組織的に学校活性化のために適切な活動をする。	42	クリエイトコースにおいて、私学支援事業（GEPや言語技術教育）を計画に沿って推し進める。	3.6	3.5	↑ 0.1	申請内容に沿って着実に進行し、研究大会や報告書作成も実施した。

評価項目	具体項目	目 標	項目番号	具体的方策	評価			成果と課題
					R2度	昨年度	増減	

### Ⅳ 教育環境 学校が置かれている条件や環境がもたらす教育的成果に関する評価

(1) 学校環境の整備	潤いのある生活環境の整備	日々の清掃を充実させ、美化意識を高める。	43	全校生徒、全教職員で積極的に清掃活動に取り組む。	3.3	3.1	↑ 0.2	年々生徒の意識が高まっている。教職員も一体となり取り組みたい。
(2) 施設・整備の管理	活用と安全管理	施設・設備の有効な活用が図られ、安全点検等の管理を適切に行う。	44	施設・設備の整備と有効活用に努め、安全点検を定期的実施する。	3.4	3.2	↑ 0.2	定期的な点検・整備が確実に行なわれ、関係部署で共有している。
(3) ITの活用	教育活動全般の情報化	パソコンを利用した校務処理を適切に行う。	45	よかdeskやNNGネットワークを有効に活用し、効率的な学校運用を実現する。	3.5	3.3	↑ 0.2	よかdeskを中心に情報共有が機能している。より効果的に利用したい。
	ホームページの更新	学校ホームページを工夫して適切な情報公開を行う。	46	学校ホームページを充実させ、学校に関する情報を適切に公開する。	3.6	3.3	↑ 0.3	適宜更新し情報発信に活用している。更なる利用促進に努めたい。

評価項目	具体項目	目 標	項 目 番 号	具 体 的 方 策	評 価			成 果 と 課 題
					R2度	昨年度	増減	

## V 開かれた学校づくり

(1) 保護者との連携	協力体制の確立	生徒に関する情報を相互に交換する。	47	個々の生徒について、教職員と保護者が連携し、相互協力のもと指導にあたる。	3.6	3.5	↑ 0.1	近況報告や相談など、担任と保護者の密な連携が増えてきている。
	育成会活動の充実	育成会活動の活発化を図る。	48	教職員が育成会活動を理解し、保護者と協力して育成会活動の活性化に努める。	3.5	3.5	→ 0	コロナ禍で活動が制限される中、風通しの良い連携が図られている。
(2) 地域や関係機関との連携	協力体制の確立	学校に関する情報を適切に公開し、協力を求める。	49	中学校訪問を適宜に行い、学校の教育方針を周知し、相互の情報交換に努める。	3.8	3.7	↑ 0.1	入試広報部と担当者の尽力で、有意義な定期訪問が実現している。
	学校間連携の充実	他校や異校種との必要に応じた効果的な連携を行う。	50	付属校としての特色を活かした施策を、日本大学及び付属校等と連携し、展開する。	3.6	3.5	↑ 0.1	日本大学本部・複数学部との高大連携が、共通認識されている。